

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	テーピング固定法	
科目基礎情報							
開設学科	柔道整復科		コース名			開設期	後期
対象年次	3年次		科目区分	必修		時間数	15時間
単位数	1単位		授業形態	講義			
教科書/教材	教科書（包帯固定学 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。						
担当教員情報							
担当教員	青木 伊之			実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的							
軟部組織損傷の急性期や反復外力の制限のために各部位、各損傷ごとに実施するテーピング固定法について、身体を代表的なテーピング方が存在する肩部、肘部、手関節部、手指部、肋骨部、腰部、大腿部、膝部、足部に分け、テーピング固定の目的、種類、範囲、施行時の肢位、各部位ごとのテープの走行、固定期間、材料、テーピング時とテーピング後に必要な配慮について理解し、正確な方法とその注意事項を学ぶことがねらいである。認定実技審査や卒後にアスレティック・トレーナーとして現場に出る、或いは卒後の臨床現場において活用できるよう知識を蓄える。							
到達目標							
認定実技審査に出題された際に問題なく合格でき、卒後にスポーツの現場でアスレティック・トレーナーとして、また柔道整復師として臨床の現場において十分に活用できるよう、各部位別、各損傷ごとのテーピング固定法について、その目的、種類、範囲、施行時の肢位、各部位ごとのテープの走行、固定期間、材料、テーピング時とテーピング後に必要な配慮などについて洩れなく口述できるようになることを到達目標にしている。							
教育方法等							
授業概要	プリントを用いる。1年次に学んだ運動器、特に軟部組織の基本的な構造と機能、2年次に学んだ各部位の軟部組織損傷の知識を基に、身体各部位の損傷についてテーピング固定法のテクニックにおける意義、意味を理解し、正確に口述できるようになるよう授業を進める。						
注意点	柔道整復師の業務内容そのものを学ぶので、身だしなみに注意を払い（KC着用、爪は綺麗に、装飾品は外すなど）、医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	テーピングの基礎知識			テープの種類、切り方と巻き方、必要な用具類について学び、テープの取り扱いを理解する。			
2回	距腿関節損傷のテーピング1			アンダーラップ、アンカー、ステアアップの巻き方を学ぶ。			
3回	距腿関節損傷のテーピング2			ホースシュー、ヒールロック、フィギュアエイトの巻き方を学ぶ。			
4回	膝MCL損傷のテーピング			Xサポート、スパイラルテープの巻き方を学ぶ。			
5回	膝ACL、PCL損傷のテーピング			特殊なXサポート、スパイラルテープの巻き方を学ぶ。			
6回	ハムストリング肉離れのテーピング			Xサポートと水平サポートの組み合わせを学ぶ。			
7回	肩関節損傷のテーピング			肩鎖関節損傷、肩関節外転外旋制限、肩損傷の応急処置のテーピングを学ぶ。			
8回	振り返り(1)			1回～7回までの振り返り			
9回	腰部捻挫、肋骨骨折のテーピング			特殊なXサポートと水平サポートの組み合わせを学ぶ。			
10回	肘関節、手関節、手指のテーピング			特殊なXサポートとスパイラルテープの組み合わせを学ぶ。			
11回	距腿関節の応用テーピング			足関節のラッピング、足関節底背屈制限、足関節損傷応急処置のテーピングを学ぶ。			
12回	足部のテーピング			アキレス腱炎、足底筋膜炎、足底の軽めのサポートのテーピングを学ぶ。			
13回	距腿関節損傷のテーピング3			距腿関節損傷のテーピングの最初からラッピングまでの流れを学ぶ。			
14回	振り返り(2)			9回～13回までの振り返り			
15回	テーピング固定法のまとめ			テーピング固定法全体を通しての振り返り			